

第四十六回 「全日本中学生水の作文福島県コンクール」入賞作文集

水について考える

主催 福島県

後援 福島県教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社、
NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、
福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM



「健全な水循環」

ロゴマーク

挨拶

水は、あらゆる生命を育み、多様な生態系を維持するとともに、大地に豊かな実りを与え、多彩で美しい自然環境をつくりあげるなど、私たちの生活には欠かすことのできないものです。

また、水は限りある資源であり、私たちの豊かな生活を維持していくためにも水環境を守っていく必要があります。

本県には、猪苗代湖や裏磐梯湖沼群をはじめ、各地に豊かで美しい水環境があります。代々受け継がれてきた地域の宝を守り、後世に伝えていくことが重要です。

県では、水に対する関心を高め、一層の理解を深めていただくことを目的に、八月一日の「水の日」及び八月一日から八月七日までの「水の週間」における行事の一環として、「全日本中学生水の作文福島県コンクール」を昭和五十四年から毎年実施しています。

四十六回目を迎えた今回は、県内の中学生から四百六十一編の御応募をいただきました。

東日本大震災や令和六年一月に発生した能登半島地震のニュースを見て感じた水の大切さ、学校での活動を通じて感じた水に対する思いや、日常生活での節水のための具体的な提案など、中学生の皆さんが、貴重な財産である水としっかり向きあつて真剣に考えていることが伝わってきました。

読者の皆さんには、この作文集を水について考えるきっかけとし、身近にある美しい水環境を将来に受け継いでいく貴重な人材となつていただけるよう願っています。

結びに、今回の作文コンクールに応募された多くの中学生の皆さんや担当の先生方に心から御礼を申し上げます。

令和六年九月

福島県企画調整部長 五月女 有良

目次

優秀賞

(作品は、各賞ごとの作者名の五十音順に掲載しています。)
※「角」は真ん中の画の下が突き出る文字が正しい標記です。

沖繩の海を見て思ったこと	矢吹町立矢吹中学校	三年	喜多山 莉帆	1
ふるさとの水を思う	須賀川市立第三中学校	三年	角田 紗羅※	2
飲水思源	福島県立会津学鳳中学校	二年	長谷川 美桜	3
未来のために水と向き合う	葛尾村立葛尾中学校	三年	松本 晴樹	4
世界中の水問題に目を向けよう	葛尾村立葛尾中学校	二年	山崎 陽向	5

入選

海を守る	郡山ザベリ才学園中学校	二年	赤津 尚樹	6
水の重要性	矢吹町立矢吹中学校	三年	伊東 袖紀	7
水と人の助け合い	福島県立会津学鳳中学校	二年	北里 紗菜	8
小さな力で命を救う	葛尾村立葛尾中学校	二年	杉本 蒼	9
生きる水	郡山ザベリ才学園中学校	二年	鈴木 璃々	10
農業と水の関係	福島県立会津学鳳中学校	二年	新國 愛花	11
大切な水と命を守ろう	須賀川市立第一中学校	二年	芳賀 愛未	12
僕を変えてくれた水の存在	福島県立会津学鳳中学校	二年	畑中 俐人	13
汚染水と処理水	福島県立会津学鳳中学校	二年	平塚 美琴	14
身近な水	福島県立会津学鳳中学校	二年	真部 英	15
スノーボードと地球温暖化と水	矢吹町立矢吹中学校	三年	三村 優奈	16

優秀賞

沖繩の海を見て思ったこと

「水天一碧」。晴れ渡った遠い海上などの、水の色と空の色が一続きになり、一様に青々している様子を表す言葉である。一面が真っ青な色に染まり、太陽に照らされ、水が光り輝く。私は、昨年の夏、この景色を旅行先の沖繩で見た。その日は快晴。シュノーケリングをするため船で沖に出た。船から顔を出して下を眺めてみると、真っ青な海が広がっていた。快晴の清々しい色をした青空に、どこまでも続きそうな広く真っ青な海。怖いぐらい美しい景色だった。

そんな景色に感嘆しながらしばらく船に乗っていると、いくつかの小さな島が見えてきた。シュノーケリングの準備をし、少し怖かったが勇氣を出して海に潜った。潜った瞬間、目の前には透き通った水の中の世界が広がっていた。綺麗な色の魚が泳ぎ、イソギンチャクの中にはクマノミが隠れている。亀もウミヘビも泳いでいた。今までに見た事がない海の中の景色に興奮したが、私が一番驚いたのは海の透明度だ。かなり遠くで泳いでいる人まで見える。プールの中でもこんなに遠くまで見えないだろう。

今まで私が行ったことのある海は、それなりに綺麗だとは思っていたが、堤防の角には淀んで白い泡が浮いていたし、消波ブロックの隙間には、ペットボトルやキャップ、洗剤のボトル等が挟まっていた。私がとても綺麗だと思った沖繩の海も、二十年前に同じ場所に潜った父母は、随分と汚れてしまったと感じていたそうだ。

海の汚れ、つまり海洋汚染の原因は、海に捨てられたゴミや廃棄物等のいわゆる海洋ゴミによる汚染だそうだ。海洋ゴミは年々増え続けており、このまま何の対策も行わなければ二五十年には海洋に住む魚などの生物よりもゴミの方が多くなると言われている。ゴミや廃棄物が海に流されると、海の浄化作用を担うサンゴ等も死滅してしまうそうだ。そ

矢吹町立矢吹中学校 三年 喜多山 莉帆

ういえば、私が潜った海のサンゴも、白く弱った骨のようになっていた。サンゴの白化と言うそうだ。白化したサンゴには浄化作用がなくなるため、海洋環境の悪化が加速し、海が濁ってしまう。私が見た沖繩の海もこのような海洋汚染が深刻化しているそうだ。

調べてみると、日本では海洋汚染が進行しないために、廃棄物処理法やポイ捨て禁止条例等の違反監視をしている他、海洋汚染防止法に基づいて、油、有害液体物質、廃棄物の排出制限、焼却規制等を行っているそうだ。このような法律や規制があるにもかかわらず、多くのゴミを見かける事に驚いた。ゴミの大半はプラスチックだそうだ。

では、海洋汚染を進行させないために私に出来る事はなんだろうか。ゴミの大半がプラスチックと言う事だから、出来るだけプラスチックを使わない事だと思う。一時期、プラスチックのストローを使わないように意識した事もあったが、最近はお店で出されたらなんとなく使ってしまった。ペットボトルのスポーツドリンクもよく買っていたが、よく洗ってリサイクルする事でプラスチックの使用を減らす事が出来る。こんな小さな事だが、皆んなが意識すれば減っていくのではないだろうか。

容器からこぼした水は元に戻せないように、何千個、何万個と増えてしまったゴミを全て汚染された海から回収し、元の綺麗な環境に戻すことは不可能だ。だから、これ以上ゴミを増やさないと大切だと思う。一人が捨てた一つのゴミも二十人では二十個になってしまふ。たった一つだから、誰かが拾ってくれるからで済まさず、一つのゴミを捨てた後に起こる可能性について考えよう。「水天一碧」という言葉を五十年後も百年後も感じられるように、この小さな意識を一人一人持つ事が最も重要だと思う。

優秀賞

ふるさとの水を思う

元日から能登半島を襲った最大震度七の大地震。震源からこれだけ離れているというのに、私の住む福島県でも震度四を記録し、緊急地震速報に心がざわついた。すぐにテレビをつけると、土煙をあげて崩れる多くの家屋と、大津波警報の文字が目飛び込んできた。東日本大震災の時と同じだ。「早く逃げて！」画面に映る歩行者や走行中の車に向かって、届きもしないのにそう叫んでいた。

テレビでは、連日被災地の様子が放送されている。多くの家屋やビルまでもが倒壊し、津波が襲った能登半島。そこに息づいてきた人々の生活や営みが一瞬にして飲み込まれた。「今一番足りないものは何ですか？」多くの被災者の方が、「水と燃料」と答えていた。私たちの時も同じだった。毎日ガソリンスタンドには長蛇の列。並んでも給油できない日々が続いた。そして、最も困ったのが水だった。私の住む須賀川市では水道が使用できなくなり、断水は一か月近く続いた。蛇口をひねっても一滴の水も出ない。「当たり前」だと思っていたことが、「当たり前」ではなくなった瞬間だった。給水所に何時間も並ぶ毎日。そもそも、水を汲むためのポリタンクすら我が家にはなかった。おもちやを入れていたケースにゴミ袋をかけて、両親は給水所に並んでくれた。当時の話を家族に聞くと、「いかに水が必要不可欠なものか」を思い知ったと言う。洗濯はもちろん、入浴も何日も出来ず、料理も洗い物も出来ない。歯磨きは最低限の水で済まし、あれだけ苦勞して運んできた水はトイレを流すために一瞬でなくなってしまう。放射能の心配もあったからだと思いが、生きるのに必死だったと話してくれた。今現在、能登の方々も同じような思いをされていることに心を痛め、何も出来ない自分にも虚無感を抱いている。被災した人々は不自由さと不安と闘っているはずだ。日本は何度自然災害の恐怖を目の当たりにしなければいけないのか。当時福島県にも自衛隊や全国の水道局の方々が駆けつけ、給水や水道管の復旧に尽力して下さった。私の家の近くにも給水車が来てくれて、近所の

※「角」は真ん中の画の下が突き出る文字が正しい標記です。

須賀川市立第三中学校 三年 角田 紗羅※

おばあちゃんは泣いて喜んでいて。能登の被災者の元にも早く救援の手が届くように祈っている。

福島県は阿武隈川をはじめとする約五百の河川に恵まれ、県民の半数は阿武隈川流域に住んでいる。小さな頃はいわきの海で泳ぎ、猪苗代湖で水遊びをした。私の住む須賀川市も阿武隈川と釈迦堂川が接し、清らかな水により緑豊かな自然に囲まれている。桜や牡丹など四季折々さまざまな花が色づき、川や海には魚や虫などの生物が命を育む。五月の中旬を過ぎると、田んぼに水が張られ、代掻きがされる。田んぼに張られた水がキラキラ輝く様子がとても美しいし、田んぼの瑞々しい生きた匂いが私は好きだ。人間をはじめとする全ての生物は、水によって生かされていると言っても過言ではない。震災に見舞われたことにより、水による恩恵と脅威の両面を経験した。地震、津波、放射能の困難に直面し、復興を支えたのは「当たり前前日常」への感謝だったのではないだろうか。断水以降初めて出た水。初めて灯った電気。これらの感動が今でも忘れられないし、溢れる感謝が、苦難に負けず歩き出そうという意欲につながったのではないかと思う。水は限りある貴重な資源だ。震災以降ずっと我が家では節水を心がけている。水に恵まれた日本に生まれ、当たり前前のようにきれいで安全な水を飲んでいる自分はいかに幸せであるかを再認識した。これからも人と水が共存していけるように、未来の水を守るために私たちは何ができるかを一人一人が考え、行動に移していくことが重要だ。行動の輪が広まり大きな力となり、ふるさとの清らかな水を未来に受け継ぐことが出来ると信じている。

優秀賞

飲水思源

福島県立会津学鳳中学校 二年 長谷川 美桜

蛇口から水が出る。安全な水だ。おいしい水だ。やがて、命を繋ぐ。この「水」が命を脅かすものへと化したらどうだろうか。
—平成二十三年三月十一日。大地震、そして大津波が日本列島を襲った。

—翌日、三月十二日。福島県の原子力発電所で水素爆発が起こった。
—数日後。関東地方の水道水から放射性物質が検出された。

当時私は生後三カ月。千葉縣市川市に住んでいた。政府から乳児の水道水飲用は控えるよう呼びかけられた。もちろん、私の記憶はない。体重の約七十パーセントが水分である乳児にとっては苦しい状況だろう。私の父は、安全な水を求めてスーパーやコンビニなどを回ったが、どこもミネラルウォーターは売り切れだったという。そこで、販売していたロックアイスに着目し、それを溶かして水を確保することができたそうだ。その後、母の友人や親戚からペットボトルの水を送ってもらい、事無きを得た。

しかし、当時その氷や水さえも手に入らなかつたらどうなっていたのだろうか。そのような状況に、世界の「水問題」が重なると考えた。世界では、十人に三人が安全に管理された水を利用できていない。水道水を安全に飲むことができる国は一握りだけだ。水問題の原因は国によって異なるが、水質汚染や水不足、地球温暖化などが挙げられる。そして、日本が水資源を大量消費している事も現実だ。私達が当たり前前に水を使う事で世界の誰かを苦しめていたのかもしれない。

地球は「水の惑星」と呼ばれ、表面のほとんどが水だ。しかし、水と言っても生活に使える水が全てではない。私達が安全に利用できる「水」はわずか〇・〇一パーセント。限りある水をどう利用し、守っていくべきなのだろう。私達だからこそできることがあるのではないか。

日本人は一日一人あたり平均二百〜三百リットルもの水を使用しているという。一方で、生活する上で必要な水の最低量は約三十リットル。私達はどれだけ水の無駄遣いをしてきたのだろうか。例えば、シャワーで水を三分間出しっぱなしにすると約三十六リットル使用することになるそうだ。その量だけで、人は暮らすことができる。水を使わない生活は不可能だが、日常的な行動もほんの少しの気遣いで未来をより良い方向へ導けるのかもしれない。

日頃から使う水の量を少しでも減らす。洗剤などを使いすぎない。これらの行動は、水問題解決への一歩につながるのだろうか。そのようなことをする上で、私達は多少の我慢を強いられるかもしれない。しかし、これは水問題に苦しむ人達の我慢とは比べものにならないはずだ。また、それらの行動は、災害時にも生かすことができる。

—それだけの意識で行動を続けられるだろうか。そこで私は、水に対しての「感謝」が必要だと考えた。「水」という言葉の語源は諸説あるが、「身(み)」を「繋(つ)なく」ものであることから、「みづ」になり「みず」へ変化したと言われている。命を繋ぐ水。日々感謝することができたなら、私達の意識も変わり問題解決への行動も続けられると思う。

水は地球上の全生命の源であり、私達にとって不可欠な存在だ。まずは、感謝することから。それは、水の惑星に生きる私達の使命である。

優秀賞

未来のために水と向き合う

葛尾村立葛尾中学校 三年 松本 晴樹

お正月、テレビを見てみると揺れを感じた。放送がすぐに切り替わり、能登半島沖の様子が映し出された。ひどい揺れ、津波警報、新年早々の平穏なお正月ムードも一瞬にして遮られた。ニュースで溢れる水やぐちやぐちやになった建物を見る度に心が痛くなった。

東日本大震災では福島県も甚大な被害を受けた。私の住む葛尾村は双葉郡にあり、山間部にあるため地震と原発事故の被害はあったものの津波被害は免れた。私は震災当時、産まれたばかりでもちろん記憶はない。避難先を転々としたことなど、理解できるようになってから家族に聞いた。

こうした自然災害には、水が関連している。津波、河川の増水、土砂災害。水は有限の資源として大切に、大事にしなければいけないが時に自然災害として牙をむく。私は海も川も大好きだ。今住んでいる葛尾村は、川のせせらぎを楽しめる環境にあるから余計にそう思う。私たちは、自然を守るために環境に優しい生活を心がけている。エコバッグを使い、水筒を使い、トイレは小で流す。水を大切に使うことが以前よりは定着してきている。そして、水の自然災害から自分たちを守る対策も同時に立てていく必要がある。エコな生活と、災害に備える準備を同時に。有限である水の使い方、いっどこで起こるか分からない災害に備えるのだ。私たちの生活と水は結びついている。だからこそ、真剣に今、向き合わなくてはならない。自分には関係ないと、見て見ぬふりをしないことが一番大切だ。

当たり前の日常が「当たり前」ではなくなったときに気付くのでは遅い。水が無くなったとき、津波や水害に襲われたとき、そのときに日常の素晴らしさや大切さに気付くのではなく普段から水について意識して過ごさなければならぬ。自然災害を防ぐことは困難だが、自然を理解し、私たちが対策を立て、備えることは可能だ。

総合的な学習の時間に、村役場を訪れ、村のハザードマップの説明を受けた。備蓄倉庫の見学に行ったりした。村民が三日過ごせる量の食料や毛布、おむつなども積み重なっていた。今回見学したことで家族とも災害時の行動、避難経路について話し合えた。山に囲まれた葛尾村だからこそ土砂災害が起きた際、慌てないためにも確認しておくことが必要だ。いざ被害に遭ってもハザードマップに従い安全な道を通って落ち着いて避難することができる。村民のみなさんにもマップの使い方や危険箇所をもう一度提示していきたい。

今年度、村の復興交流館で学習成果物を販売し、売り上げたお金をユニセフに募金した。家庭科で作成したバッグや張子、国語で作った漢字キーホルダーを一つ百円で売り、一万八千五百五十円を寄付した。ユニセフでは世界中の村々に、清潔な水を届けられるよう井戸などの給水設備を作っているそうだ。私たちの活動が、少しでも世界中で水に困っている人のためになれば嬉しい。汚い水を飲むしかない子供の未来を、明るく照らしてあげたい。水の環境が悪い方々は世界人口の半数以上もいて、苦しんでいる。日々のありがたさを忘れないことが、当たり前の日常に感謝する一歩に繋がる。これからも積極的に募金活動を行きたい。そして、私たちは能登半島沖地震を受けてさらに募金活動を行った。ユニセフに協力したときと同様に張子やバッグを売り、チャリティ形式にした。微力ながら一万四百円を寄付することができた。

水は私たちに当たり前の生活を与え、ありがたい日常にしてくれる。一方で、水の自然災害は尽きない。水について一人一人が考えていかなければならない。能登半島沖地震で被害に遭われたみなさんや世界中の水に困っている人々の笑顔が戻りますように。世界が人を豊かにする水で溢れることを願っている。

優秀賞

世界中の水問題に目を向けよう

葛尾村立葛尾中学校 二年 山崎 陽向

世界中で水問題に困っている人は約二十二億人もいる。インターネットで調べていて分かったことだ。私たちの住む日本で、水に困っている人はおそらくいないだろう。駅や公園に行けば必ずトイレや水道が整備されている。世界中を見渡すと、多くの国や人々が生活用水を存分に使えていない状況だ。さらに調べてみると「世界で一番汚い川」が検索先にでてきた。クリックするとそこには川一面ゴミで溢れた写真が何枚も載せられていた。インドネシアのチャラム川という川らしいが川とは呼べないほど酷い状態だった。こんな川は今まで見たことがなく、驚きを隠せなかった。多くの人は、この川を「殺人ゴミ山」と呼ぶそうだ。そう呼ばれている理由は、川に生息していた魚の六割が絶滅、動物の死骸も流れてくるからだ。工場排水で汚れたこの川は、アルミニウム、鉄、マンガンなどが含まれ、人間の体内にも取り込まれ様々な被害を及ぼしている。アメリカの安全な飲料水の基準の千倍もの鉛の濃度があるそうだ。考えてみただけでも恐ろしい。しかし人々はチャラム川の水を農業や生活用水に利用しなければならぬ。この水を利用しないと、他に使える水がないのだ。生きるために人体にリスクのある汚れた水を使わなければならぬ。どんなに汚れていても利用するしかないのだ。蛇口をひねったら安心安全な水が簡単に手に入る日本。当たり前の光景だが、インドネシアの当たり前は、このゴミで溢れた川だと考えると、悲しくなった。そしてこの水を使うことが日常だ。自分の当たり前は、ありがたいことだということを胸に刻み、行動していかなければならない。

引き続き調べている中で、日本も以前は同じような川があったという記事を見つけた。福岡市の那珂川だ。昭和の高度経済成長によって工業排水が川へと流され非常に汚い川になったと書かれていた。那珂川は今では河川敷も緑地活用されとてもきれいな景色が広がっていた。そんな

ことがあったなんて誰もが思わないだろう。このような例を見ているとチャラム川にも可能性が見えてきた。同じ世界、地球に住んでいるのだからみんなが同じ条件で、幸せに過ごせることがベストだと思う。自分は何か水を守るためにできることはあるだろうか。インドネシアの方が安心して水を使えるようになるにはどうすればいいのか。何か自分から発信したいと思っていた時に、ちょうど家庭科の授業で「リサイクル張子」を作るようになった。

私たちは以前からシュレッダーゴミの再利用をしてきた。シュレッダーゴミは繊維が細かいため、再利用がしにくく焼却処分しかできない。エコな活動をしよう、これまでにシュレッダーゴミを活用してしおりや張子を作ってきた。可燃ゴミに出さない分、温室効果ガスが排出されなくなり、少しでも環境に優しくできる。紙をリサイクルすることで、新しく森林伐採をせず環境を守ることになる。紙を作るにも大量の水が使用されている。僅かな努力かもしれないが、この小さな行動が世界を変えていく一歩に繋がるかもしれない。同じことを百人、千人、一万人が心がけたらどうだろうか。少しでも協力しようという姿勢を私たちが示すことで未来は変わる。

また、作った張子をチャリティー募金で販売し、ユニセフに募金した。売り上げ金額一万八千五百五十円を全額寄付した。そのお金で手押し式井戸や雨水をためるタンク、トイレや手洗い場が建設されるそうだ。困っている人の手に渡る。井戸ができて笑顔になった方々を想像すると募金活動にやりがいを感じた。これからも、世界中で苦しんでいる人のためにチャリティー募金活動を続けていきたい。インドネシアに住む人々も安心して水が使えるよう、私たちは日本から支援していく。

入選

海を守る

ぼくは二〇二一年四月に、政府が東日本大震災で破壊された東京電力福島第一原子力発電所から排出されている放射性物質を含む百万トン以上の処理済みの汚染水を福島県沖の太平洋に放出する計画を承認したというニュースを見た。当時のぼくは、難しい言葉ばかりで理解することはできなかつたが少し不安を感じた。しかし、この水は原発の核燃料を冷却するために使用されているもので飲料水と同じ放射能レベルまで希釈してから二年後に放出が始まるということだった。

二〇二三年一月に、政府は処理水について、今年度中に百万トン以上を海に放出する方針を示した。政府や東京電力は、ほとんどの放射性物質の濃度を国の基準より低く薄める処理を済ませた水だと説明している。原発から出る汚染水に含まれるほとんどの放射性物質はALPS処理で取り除かれるものの、東京電力によると、残るトリチウムの濃度は国の基準を超えている。専門家によると、トリチウムを水から分離して取り除くのはきわめて難しく、人間に危険を及ぼすのは人体に大量に取り込まれた場合のみだという。ぼくはこのニュースを見て、いよいよ海洋放出が始まるのだと思った。やはり不安はあるが、決まったことなので仕方ないと思った。

ぼくは海を守るために、自分でもできることはないか調べてみた。水質汚濁の主な原因は人間の経済活動によるものだと分かった。原因を大きく分けると、生活排水、工場排水、農業排水、牧畜排水がある。ぼくは生活排水に注目した。生活排水とは、台所、トイレ、洗濯、風呂など日常生活からの排水のことで、水質汚濁問題の原因の五〜七割を占めている。台所からの排水は全体の約四十五パーセントを占めており、特に油が大きな原因となっている。使用済みの油コップ一杯分を海や川に流した場合、魚が住める水質にするためには二万リットルもの水が必要とする。ぼくたちが気を付けるべきことは、汚れた水をそのまま流さない

郡山ザベリオ学園中学校 二年 赤津 尚樹

ことだ。環境省は『暮らしの中で今すぐ実行できる対策』を挙げている。台所では、食器を洗う前に油汚れなどは拭き取る。残った油を捨てる際には新聞紙などに吸わせる。風呂では、髪の毛などは排水溝にネットをはって流れないようにする。シャンプーやリンスは適量使用する。洗濯では、洗剤は計量使用する。トイレでは、使用後にこまめに掃除をすることで、洗剤を使って掃除をする回数を減らす。などがある。一人一人がちよつとしたことに気を付けて行動することで、水質汚濁問題の解決への効果が期待できるとのことだ。

日本には、水質を浄化する技術がある。例えば、水処理機は、工場などの排水に含まれるヒ素、鉛、水銀、ダイオキシンを処理する。また、太陽光を使用した水を浄化する技術もある。それはパナソニックが開発した『光触媒水浄化技術』で、水中の有害物質を環境浄化材料『光触媒』と太陽光に含まれる『紫外線』によって高速処理する技術である。薬品を一切使用せずに水を浄化することができ、安全性が高く環境負荷もないことから注目されている。さらに、特殊な膜や微生物を使って排水を処理する技術もある。ぼくは、日本の水質浄化の技術をすごいと思う。

ぼくは、日本の水質浄化技術があれば、放射性物質を含む処理水もどうにかするのはないかと期待している。ぼくは、自分ができることとして『暮らしの中で今すぐ実行できる対策』を実行していこうと思う。また、家族や周りの人たちにもこの対策を伝えたいと思う。

入選

水の重要性

水は私たちの生活において重要な役割を果たしています。地球上でも豊富な資源の一つであり、その重要性は計り知れません。私たちの健康や生活において不可欠な役割を果たすだけでなく、環境、経済、そして文化にも深い影響を与えています。

水は生命の源です。地球上のすべての生物が生存するために水を必要としています。私たち人間の体の六十パーセント以上が水でできており、水は体温調節や栄養素の運搬など、数多くの生理的機能に必要不可欠です。加えて、農業や工業においても水は極めて重要であり、これらの分野においても水の存在は欠かせません。水不足は食糧危機や経済的影響を引き起こす可能性があります。

しかし、現在、世界中で水資源が危機に瀕しています。原因は急速な人口増加、産業の発展、農業の拡大などです。また、汚染や水質の悪化も深刻な問題です。これらの要因により、水不足が深刻化し、生態系への影響が顕在化しています。河川や湖、地下水の枯渇、生態系の変化などがその例です。

これらの問題に対処するためには、持続可能な水資源管理が不可欠です。そして、地域や国際レベルでの協力や政策の策定も必要です。これにより、持続可能な水資源の確保と管理が可能になります。

私たちの行動が地球上の水資源に与える影響は大きく、その重要性を理解し、適切な対策を講じることは不可欠です。水は私たちの生命線であり、これから先も世代を超えて大切に守っていかなければならない貴重な資源です。水資源の持続可能性を確保するために、私たちの生活様式や消費パターンを見直すことも重要です。例えば、家庭での水の使用量を減らすために、漏水を修理したり、節水型の設備を導入したりすることが考えられます。また、食品の生産や製造においても水の使用量を

矢吹町立矢吹中学校 三年 伊東 柚紀

削減する取り組みが求められます。

また、教育と意識啓発も重要です。水の重要性や持続可能な利用方法についての教育を行い、人々の意識を高めることが必要です。子どもから大人まで、水の大切さやその貴重さを理解し、適切な行動をとるよう促すことが重要です。同時に、政府や国際機関などが連携して、水資源の管理や保護に取り組みすることも必要です。水の持続可能な供給を確保し、水不足や汚染などの問題に対処するため緊急の対策を講じる必要があります。

水は私たちの生活に欠かせないものであり、持続可能な未来を築くためには、その大切さを理解し、適切な対策を講じる必要があります。私たち一人ひとりの小さな行動が、地球上の水資源に対する貴重な貢献につながることを忘れてはなりません。水資源の持続可能性を確保するためには、技術革新も重要な要素です。水の浄化技術や再生利用技術の進歩により、限られた水資源を効率的に利用することが可能になります。また、持続可能なエネルギー源の開発も水資源に対する負荷を軽減するのに役立ちます。水力発電や太陽光、風力などの再生可能エネルギーの利用は、水資源を保護する観点からも有益です。

最後に、水は地球上での生命を維持するために極めて貴重な資源であることを認識し、個々人が日常生活での水の使用に注意を払うことが重要です。蛇口を閉める、無駄な水の使用を避ける、プラスチックや汚染物質を水源に捨てないなど、日常の些細な行動も大きな影響を与えます。水は、私たちの生活や文化に深く根ざしており、その重要性を見落とさずに、持続可能な未来のために水資源を大切に管理していくことが必要です。

入選

水と人の助け合い

福島県立会津学鳳中学校 二年 北里 紗菜

私が住む福島県には美しく雄大な自然が広がっている。その一つ、福島県のシンボルとされる「猪苗代湖」がある。猪苗代湖の水は言い知れない多大な恵みを、昔から私たち人間にもたらしてくれている。

まず一つ、飲み水として私たちに恵みをもたらしてくれている。福島県では現時点で五つの浄水場が各家庭に水を供給している。そのうち「滝沢浄水場」では、取水口から猪苗代湖の水を取り入れ様々な機械で洗浄したのち、やっとの思いで私たちに安心・安全な水を届けている。私はいつも起きたらまず、コップ一杯の水道水を飲むようにしている。でも、これが猪苗代湖の水だと思つくと、以前は感じられなかったありがたみを感じみと感ぜられるようになった。

もう一つ、発電用水として恵みをもたらしてくれている。猪苗代湖から取水される水の約八割は電力用水として利用されているそう。また、二〇二二年の一年間、福島県で発電される電力の約十三パーセントを水力発電で補っているということが分かった。つまり、猪苗代湖の水を使った水力発電は、福島県の発電の八分の一以上を担っているのだ。このことから、猪苗代湖が枯渇してしまえば、他の発電方法で補うだけではなく、電気の消費を制限しなければならなくなる可能性が出てくる。

さらにもう一つ、農業用水として恵みをもたらしてくれている。農業用水としては、戸ノ口堰や日橋堰、中田浜の揚水場で広く利用されている。戸ノ口堰では約一三四〇ヘクタール、日橋堰では約一三七〇ヘクタール、中田浜揚水場では約一二〇ヘクタールの田畑で農業用水として利用しているそう。また福島県では、地域ごとに恵まれた自然条件を生かして、多様な豊かな農産物が生産されている。そのうち、米が全体の約三割を占めている。その他にも、キュウリやトマト、サヤインゲンなどの野菜や桃や梨、リンゴなどの果物をはじめ、全国的に生産量の多い

農作物がたくさんある。つまり、猪苗代湖の水が福島県が誇る豊かな農作物を作っていると言えるのだ。私の毎日の食卓に並ぶ料理も猪苗代湖の水のおかげであるものだと思うと、「いただきます」にかける思いもより大きなものになった。

私たちはこのように日頃から水の恩恵を受けている。ならば、それに見合う返礼をするのが私たちの務めではないだろうか。猪苗代湖は現状、弱酸性だった湖水の中性化のみならず、湖水自体も汚れてきているそう。その原因は私たちが出す生活排水にある。水は今この時まで、私たちの豊かな生活を守り続けてくれている。それなのに、私たちの手で水を汚すなんて、人間として悪逆であり、水に対して無礼ではないか。水のために一人一人ができることとしては、まず家庭排水の処理がある。各家庭で下水道や浄化槽を使用すること、また最初から処理しにくいものは流さないことが望ましい。もう一つ、節水がある。風呂の残り湯を有効に使ったり、洗濯の回数を減らしたりすることが望ましい。ここで挙げたものだけではなく、水のために自分なりに工夫して行動することが、水へのお返しになるのだ。

水は人のために、そして人は水のために。この繋がりを私は「水と人の助け合い」だと思う。水も生きているのだから一人の人間として考えて、もしその人が困っていたら優しく手を差し伸べることが無難だろう。しかし現代の人間は、困っている人をさらに困らせるような行動をしているのだ。これからの福島、日本では「水と人の助け合い」が推進されることを私は望む。そうすれば、水と人のよりよい関係が構築されるのではないだろうか。

入選

小さな力で命を救う

葛尾村立葛尾中学校 二年 杉本 蒼

「どんなに汚くても、この水を飲むしかない」
私がインターネットサーフィンをして見つけたサイトに大きな文字で書かれていました。その記事には、安全な水を使うことが出来ない六億六千三百万人の人々について載っていました。私は思わず声が出るほど驚きました。SDGsや募金活動の時間で安全な水を使えない人がいることは知っていました。しかし、そのような人々がそんなにもいることは考えもしていませんでした。

また、多くの途上国で水汲みをするのは子供たちです。汲んだ水の重さに耐え、遠い道を歩き続けます。水汲みが仕事の子供たちは学校へ行く時間も体力もありません。そして、この汲んできた水を飲むことによつて毎日八百人の子供の命が奪われています。水が飲みたくて運んでもその水はとても危険です。危険な水を飲めば命を落とします。しかし、小さな子供たちは当然、水を飲みたい。今、中学生の私でも水が制限される生活なんて考えられません。幼い子までがこんなに辛い思いで生活していると知り、胸が痛みました。

私たちは家庭の授業で張子を作り、学校の活動としてチャリティー募金活動を行っています。作ったものを一つ百円で販売し、たくさんの方々に協力してもらいました。今年度は、葛尾村社会福祉協議会、ユニセフ、能登半島沖地震で被災された方に売り上げのお金を届けることができました。

そこで、私は学校で行ったユニセフへの募金は、どのように使われているのか気になって調べることになりました。三千円を寄付すると、洗浄剤七千二十五錠、五千円で下痢による脱水症状の子供の命を守るORS七百四十八袋へと変わります。さらに一万五千円の寄付を行うことできれいな水を彼らの口へ運ぶことができます。井戸の建設が可能になるの

です。学校で行った募金の総額は一万八千五百五十円にも上りました。そうすると、私たちの募金活動によってどこかに井戸が建てられたのかもしれない。そう思うと嬉しくなりました。寄付したお金がどのように使われているのか調べたことで、自分たちの活動が困っている方々の役に立っていると知ることができました。

私は直接現地に駆けつけることはできません。会ってきれいな水を渡すことも、井戸を建てるのを手伝うことも、薬を処方してあげることも、もちろんできません。しかし、この活動を続けることはできます。少しの募金かもしれませんが、彼らの生きる力になることを願っています。一人でも多くの子供たちの命が助かると嬉しいです。全校生徒四名でアイディアを出し合いながら始めた募金活動。世界中の誰かを笑顔にしていると思うと誇らしいです。全世界の人々が安心して水を使える世の中に変えていきたいと思えます。

今年度の募金活動は、チャリティーという形をとりました。シュレッツダーゴミから作った張子や、習字でデザインしたバッグやキーホルダーを販売しました。その売上金を全額寄付し協力しました。来年度も環境に優しい商品を手作りしていきたいです。特に人気が高かったバッグのように習字でデザインした商品のティッシュケースやポーチなど、たくさんの方が喜んでくれる商品を企画していきたいです。商品を買ってくれたお客様と、募金活動によって助かる方々、両方の笑顔を想像すると、今からすぐにも活動したい気持ちでいっぱいです。

安全な水を届けたい、困っている方々の手助けをしたいという思いで始めたチャリティー募金活動。全校生徒四人の中学校の私たちが始めた小さな行動がたくさんの方々の心を動かすようになったら素敵だと思っています。

入選

生きる水

郡山ザベリ才学園中学校 二年 鈴木 璃々

私は、「水」と聞いて、かつての日本の高度経済成長期の頃の問題が思い浮かんだ。その問題というのは、水質汚染問題である。

水が汚染された結果は、耳にいれるだけでも胸がいたむほどだった。水質汚染による生態系の破壊や健康被害が起こったのだ。健康被害といえば、イタイイタイ病や水俣病などが社会問題となった。イタイイタイ病は、あまりの痛さにたえられず、患者が「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶことがこの名が付いた由来だそう。この事を調べて知って恐怖心が芽生えた。人間がまねいた失態がやがてまわりめぐって、自分たちにも影響をおよぼすことになるのだ。私は、そのようなことを考えると、未来が心配に思えてきた。これから先の人間は環境とどう向き合っていけばいいのか。その答えは、SDGsにあると思う。

「SDGs」とは、二〇一五年に採択された、持続可能な開発目標である。この中でも「水」に関する目標は二つ挙げられる。六番と十四番である。

私の「水」のイメージは、「身近にある」や「安全な飲み物」、「透き通っている」などである。しかし、世界を見ればこのような価値観が大きくくつがえる。調査した結果、世界人口の約十七パーセントほどが身近にない状況にある。そして、世界でも七億人ほどの人が貧困にあり苦しんでいる。六番の目標である「安全な水とトイレを世界中に」は、貧困にある人々を幸せにいくためにも必要な目標だと思う。身近に完全に管理された飲み水がない人は、地表水といって、池や川の水を利用していたりするそうだ。もし、自分がこんな生活であれば不安しかないと思った。十四番は「海の豊かさを守ろう」で、地球の一部である「水」という資源を大切に未来へつなげることが求められていると思う。高度経済成長などの社会的な発展やゴミなどの大量の不純物が原因である。

これら全部が人間の責任となってくる。人間が生きている以上、どうしようもない事である。だから、せめて、水も生きていると理解することが必要だと思う。水という存在価値が「汚い」、「にごっている」で汚されることのないように、対策を立てていくべきだ。その対策の一環としてSDGsについて深く考え、取り組むべきだ。

SDGsの「水」についての取り組みとして、一つ目に挙げられるのが「節水」である。「節約」という言葉をよく耳にする。節約とは簡単にいうと、むだ遣いをやめて切りつめることだ。節水は水をむだ遣いしないことであるといえる。水が身近にない人たちは、満足に水を使うことができないのに対して、私たちは、水をむだに使っていないのだろうか。なにより、水は人間だけの物ではない、他の生物たちのものでもあり、地球の一部の物でもある。そのため、環境だけでなく、生物のためにも、節水の心掛けが必要だと思う。

二つ目に生活排水を出さないことが大切だと思う。もちろん、ゴミを処理されない場所に捨てることもふくまれている。なぜなら、陸地であっても、自然の力で海にはこぼれていくからだ。ゴミが海をおおいつくし、青く透き通った海が見えることもなくなる。日常的に出る排水物をなくすためには、ゴミ拾いや水に油などの処理しにくい液体を混合しないことが必要だ。

このようなささいな取り組みでも、生きる水を救うことができる。そして、水と向き合い、私たちの未来がこれから、もっとより良くなっていくのだ。

入選

農業と水の関係

福島県立会津学鳳中学校 二年 新國 愛花

私が住んでいる会津美里町には田畑が多く農業が盛んです。

私の家は専業農家です。私の家では米を主に扱っています。作物に適した土作り、種植えや田植え、肥料の撒布や雑草の除去、収穫、出荷の作業を行います。農業には水が欠かせません。作物を育てるためには、たくさんのお水が必要です。一キログラムのお米を生産するのに必要とされる水の量は約五千リットルだそうです。田んぼには六カ月ほど水が入っていて、蒸発したり、稲が水を吸ったりすることでたくさんのお水が必要になります。私の家では約千三百トンのお米をつくっているのです。約六百五十万キロリットルの水を毎年使っています。地球は星の中でも珍しい水がある星ですが、世界中で毎日水を使えば水不足に悩まされる人も少なくありません。

私の家でも水不足に悩まされた年がありました。雨が降らず晴天の日が続いたため、ダムに水が少なくなり、用水路に水があまり流れなくなっていました。私の家で育てているお米は水稲なので水がないと育ちません。水が少ないことに加えて晴天なので、すぐに水が乾いてしまいい、こまめに水を足さなければいけません。水が少ないと、水の取り合いになり、自分の田んぼだけに水が入るようにする人もいたため、父が夜おそくに田んぼを見張っていたそうです。

福島県の地球温暖化による影響を調べてみると、平均気温が上昇し、降水量が減少していることがわかりました。このまま気温が上昇し、降水量が減少していけば、作物を育てることが難しくなっていくます。

安定してお米をつくるために私にできることは何か考えてみました。作物を育てるために欠かせないものは水です。適切な量の水を稲に与えることが一番大事です。稲作に関する水不足が起る原因は、地球温暖化などによる気候変動、湖や河川の上流地域での過剰取水、水質汚濁な

どが挙げられます。これらの対策として私ができることは地球温暖化を防ぐこと、水質汚濁を防ぐことだと思います。

地球温暖化を防ぐためには、家電の省エネ、節水、マイバッグの持参などがあります。温室効果ガスの排出を止めるために、必要のないエネルギーの消費を減らすことが大切です。

水質汚濁を防ぐためには、食べ残しをしないこと、油汚れをしっかりとふき取る、洗剤を使いすぎないことなどが挙げられます。水質汚濁の原因の中で生活排水の影響が大きいです。このようになさずにできることも、取り組みたいと思います。

水が不足すると、作物が育たなくなり、日本の主食である米も食べることができなくなってしまうです。おいしいお米を食べるために水という大切な資源を守りたいです。地球温暖化の対策にも節水という言葉があったように、世界の環境問題はいろいろな問題と関わり合っています。水不足や水質汚濁の原因として最近よく耳にする「地球温暖化」がありました。地球にはたくさんの方が住んでいて、豊かな生活をしている人もいれば、貧しい生活をしている人もいます。みんなが幸せな生活をおくれるように、地球温暖化などの環境問題を改善したいと思いました。そのために私にもできることを日々心がけて、人々が生きるための水や地球を守りたいです。

入選

大切な水と命を守ろう

須賀川市立第一中学校 二年 芳賀 愛未

私たち人間が生きていくためには水が必要です。水をずっと飲まないでいれば死んでしまうこともありますし、料理を作るのにも、服を洗たくするのも、他にも私たち人間が生きていくためには水が必要です。でも、そんなとても大切な水を、私たち人間は自分たちの手で汚してしまっています。川や池の水が汚れてしまうことを、水質汚染と言うそうです。また、海が汚れてしまうことを海洋汚染と言うそうです。私は水質汚染と海洋汚染について調べ、考えてみました。

水質汚染の主な原因は、産業排水、生活排水、気候変動だと分かりました。産業排水は、工場や農場などから出る水にふくまれている有害物質が原因で水が汚れてしまうこと、生活排水は、一般の家で生活して出た水が原因で水が汚れてしまうこと、気候変動は、地球温暖化によっての気温上昇や豪雨が増加していることなどが原因で水が汚れてしまうことだそうです。水質汚染によって起こる問題は、川や池で生活している生物やそれを食べている動物などの生態系に影響をあたえていること、人々の健康にも影響をあたえる可能性があることだそうです。水質汚染によって、川や池で生活している生物が減少してしまうと、それを食べて生活している動物も減少してしまったり、多くの生物や動物が絶滅してしまうかもしれないそうです。そして、水質汚染が進むことで水が不衛生になってしまい、その水を人々が飲むことによって、感染症などが起きてしまい、健康被害を引き起こしてしまう可能性があるそうです。私は、人間が多くの生物や動物を絶滅の危機に追いやっていて、大切な命を殺してしまっているのだと知り、悲しくなりました。

私は小学生の時、学校の授業で釈迦堂川の水質調査をしたことがあります。そのときの結果は「きれいな水」でした。私はその時、「今はきれいでも、これから有害物質が入ってしまったら、ゴミを捨てられてし

まったりして、そのまま海に流れていってしまったら海が汚れてしまう」と思っていて、川にゴミを捨てないようにしようと思えました。その後、私は海にゴミが入ってしまったらどうなるのかを調べました。海洋汚染の原因は、水質汚染の原因と同じ産業排水と生活排水、またプラスチックゴミが海に流れこんでしまうこと、船の衝突などで流れ出てしまった有害液体物質などと分かりました。海にそのようなものが入ってしまうと、魚がゴミをえさとまちがえて飲みこんでしまったり食べてしまったりして、死んでしまうこともあるそうです。それだけでなく、ゴミに近づいてからだにからまってけがをしてしまうこともあるそうです。また、人間にも影響があり、マイクロプラスチックを食べてしまった魚を私たち人間が食べることで、人体に悪影響をあたえることがあるそうです。私は、人間が生きていくために必要な魚を、大切な命を自分たちの手で殺してしまったり、けがをさせてしまったりしているのだと知り、魚たちがかわいそうだなと思いました。

私は水質汚染と海洋汚染について調べ、考えて、私たち人間は自分たちが生きていくために必要な水を、自分たちで汚してしまったり、生物や動物の大切な命を簡単にうばってしまっているのだと知りました。私は、これ以上大切な命をうばってしまわないように、自分にできる水質汚染と海洋汚染の対策をしようと思えます。そして、一人一人が水質汚染と海洋汚染の対策をして、自分たちの飲む水をきれいなまま守り、生物や動物も健康に生活できる世界になったら良いと思います。

入選

僕を変えてくれた水の存在

福島県立会津学鳳中学校 二年 畑中 俐人

「ブーブーブー、ブーブーブー。」

二〇二四年元日の夕方、突然母の携帯電話に入っている防災速報のアラームが鳴り響き、僕の心臓はバクバクし始めた。今年は雪が降らず、とても静かで穏やかな正月を迎えていたが、この時僕の住む町でも震度四の横揺れの地震が発生し、僕は身の安全を確認しながら、揺れがおさまると心臓のバクバクが鎮まるのをじっと待っていた。揺れがやっとおさまったのもつかの間、また防災速報のアラームが数分置きに何十回も大きく鳴り続き、落ち着かない正月へと一転した。幸い会津地方では大きな被害がなかったが、震源地である日本海側の地方では今でも一日約百回の余震が続いていて、建物の倒壊、土砂災害や公共交通機関の停止、ライフラインの寸断など、とても甚大な被害になってしまった。そして何よりも、正月久々に家族で一緒に過ごすため帰省した人たちも数多くいるなかで、突然その命を奪ってしまった地震がとても憎かった。この現実にはやるせない気持ちが続いている。

僕はこの気持ちのなかで、二〇二二年八月四日、会津地方を襲ったゲリラ豪雨の災害を思い出した。集落到土砂が押し寄せ、道路と水道や電気がしばらく寸断され孤立してしまった人がたくさんいた。食べ物や水はあるのか、生活に必要なものは不足していないのか心配な気持ちになったことをきっかけに、僕は「水」について調べることにした。僕たち人間は、身体の六割が水分で覆われているほど、「水」は重要で不可欠なもの。僕は、「水」がないと生きていけない。この夏に水についての実験も行うことにした。その実験は「泥水を飲料水に変える、天然濾過装置作り」というものだ。どのくらい飲料水に近づけて飲むことができるのか僕は半信半疑だったが、生きていくために必要な水づくりにとっても興味湧き実験をスタートさせた。まずペットボトルの底をカットし、

小石、綿、活性炭、綿、砂の順番に入れ、飲み口をガーゼで覆って逆さまにして泥水を濾過させた。結果は二十グラムの濁った水の濾過に終わった。濾過した水が全部出てくるまで三十分もかかってしまい、とても実用的ではないことが分かった。僕がもし災害に遭った時、これらの道具が準備できる訳もなく、日頃からペットボトルで水を確保していたとしても、災害の種類によってはその水を飲むことも使うことも出来なくなる状況に陥るかもしれないと思った。

また、五年前から流行し始めた新型コロナウイルス感染症の影響は、自分の身だけでなく周りの人の身も守るために、手洗いの大切さを物語ってくれていると感じた。水は安全であれば命を守ってくれる存在になるが、汚染されている水だと人々に害を与え命を奪ってしまう存在になってしまう。日本のように蛇口をひねれば一瞬で水が入る地域もあれば、発展途上国のように家から何時間も遠く離れた井戸に歩いて汲みに行き、少量の水しか手に入れない地域もあるということを知り、その当時に調べてみて分かった。

僕は今回の災害を通して改めて水について調べてみることにした。災害時に水が本当に必要な理由は、飲料水としてだけでなく、水が使えない環境こそが被災した方々のストレスになってしまい、健康状態に大きく影響を与えてしまう。これが死亡原因にも繋がってしまっているということを知って驚愕し、同時に落胆もした。

毎日あたり前に使っている水だが、僕が引き続き出来ることは、「水」の恩恵と向き合い、生命の維持に大切に必要だという意識を持つこと。そして節水を心掛けて生活することだ。身近な「水」の存在が、僕の考えと未来へと続くこれからの生活を変えてくれた。

入選

汚染水と処理水

福島県立会津学鳳中学校 二年 平塚 美琴

「汚染水じゃなくて処理水だよ。」
ニュースを見ている母が小さく呟いた一言が私にはやけに大きく聞こえた。

二〇一一年に起こった東日本大震災の影響で、福島第一原子力発電所は壊滅的なダメージをおってしまった。原子炉の内部に残る、溶けて固まった「燃料デブリ」を冷却するために、十数年たった今でも水をかけ続けている。その冷却水が高濃度の放射性物質を含んだ「汚染水」と呼ばれるものだ。その汚染水を貯めておくスペースが足りなくなり、二〇二三年八月に、汚染水からトリチウム以外の放射性物質を取り除いた「処理水」を海洋放出した。日本政府が処理水を放出すると決定したとき、国内外からたくさんの方々の非難の声があがった。正直私も海にその水を放出して大丈夫なのか不安に思った。SNSでも「汚染水を海に流すなんて日本はどうかしている」「本当に大丈夫なのか心配」といった声であふれかえっていた。そんな中、汚染水ではなく処理水だという母の言葉を思い出し、自分なりに調べてみた。

まずトリチウムの危険性を調べると、トリチウムから発生する放射線のエネルギーは非常に弱く、規制基準を守る限りにおいては危険ではないことがわかった。次に世界各国が年間に海洋放出するトリチウムの量を調べてみると、韓国四十九兆Bq、中国百一兆Bq、カナダ千九百九十兆Bq、フランス一京Bqだった。それに対し、日本の想定される最大放出量は二十二兆Bqだ。あれだけ周りの国から批判を受けたが、その国に住む人々は果たして自分の国のトリチウムの放出量を知っているのだろうか。漠然と不安や危険だと思いついてしまうのは良くないことだと改めて思った。

残念ながら、批判をしていた人は、外国人だけではなく日本人にも大

勢いた。不安な気持ちも理解できるし、日本のきれいな海を汚してほしくないという気持ちもわかる。しかし、放出されたのは汚染水ではなく処理水だ。きちんと基準を守り、安全だと科学的にも証明されているから放出されたのである。そうであるにも拘わらず、自分の思い込みや間違った情報で批判することは、風評被害にも繋がってしまう。実際に日本の水産物の輸入を規制している国があったり、福島の水産物は危険だから買わないと言っている人もいる。本当は安全なのに風評被害によって苦しんでいる人達がいるのはとても悲しいことだ。国やメディアがもっと声を大にして、処理水は安全だということをアピールするべきではないだろうか。

日本の水はきれいだ。蛇口をひねればいつでも美味しい水を飲むことができ、毎日お風呂に入ることもできる。日本の野菜やお米、海産物が美味しいのも美しい水のおかげだ。一方でまた、水による川の氾濫や山崩れ、津波などの自然災害もある。水は私たちの生活を豊かにしてくれる反面、恐ろしい存在でもあるのだ。その水と地球上の生物は上手く共存してきた。生物が生きるためにはこの先もずっと水は必要不可欠なものだ。今回の処理水の放出は、いくら安全だとはいえ、海にまったくの影響がなかったとは私は思っていない。しかし、発電所の事故は津波によって引き起こされてしまったものだ。生物を生かす水が、生物に牙をむくときもある。だから人間は、いかに水を大事にし、上手く共存していくかを考えていかなければいけない。また、間違った知識ではなく、正しい情報を自分自身で得ることが重要なのではないだろうか。そしてなにより、一人一人が普段から生活するうえで水を大切にすることを意識を持つことが、海の水をきれいに保つために最も必要なことなのではないかと私は思う。

入選

身近な水

福島県立会津学鳳中学校 二年 真部 英

私が住んでいる会津には、コシヒカリという米がある。これは、全国の百五十二品種の米のうち、四十品種が評価された「特A」という、米の食味ランキングの最高評価にあたる。このようなおいしい米を作るには、豊かな水が欠かせない。私は、米がこんなにおいしいのだから、水も豊かなのだろうと思っていた。

先日、部活の帰り道に田んぼが両側にある道路を通った。ふと用水路を見てみると、空き缶やプラスチックの容器、ビニール袋などがいたるところにあった。周りに住宅もなく、人通りが少ない道なので、車からごみを投げ捨てたのだろうと思った。この時は冬だったので、まだ用水路に水は入っていなかったが、春になれば水が流れ、田んぼへ、そして川へのごみが運ばれてしまう。この状況では、水がきれいとは言えないだろうと思った。

この体験の後、私は用水路の役割について調べてみた。一つは、洪水被害が起きないように水量を調節したり、火災の時に消火する水にしたりと、この防災の役割。二つ目は、鳥類などの生態系の保全という役割。三つ目は、消雪・流雪の役割。そして、用水路を通るうちに水がろ過され、酸素を取りこんで水質を浄化するという役割だ。では、このような役割を持つ用水路に、ごみが捨てられていたらどうだろうか。火災のとき、水を吸いあげるときに邪魔になるかもしれない。また、海で鳥がプラスチックごみを食べて死ぬということがないように、田んぼのごみを食べて死んでしまうかもしれない。ごみが川まで流れていったら、水質が悪化してしまうかもしれない。水質が悪化すれば、米の品質も下がってしまうだろう。私たちの生活に欠かせない役割を持つ用水路が汚れば、人も生き物も困ってしまうとわかった。

では、用水路の水をきれいにするためにはどうすればいいのだろう。

私ができることは、絶対にごみを外に捨てないこと、家族や友人が捨てようとしていたら止めることだ。ごみを捨てようとする全ての人を止めるのは今はできないが、身近な人からなら止められると思う。また、学校の授業で調べ学習がある時に、田んぼの水について調べて発表することもできると思う。私は今農業について調べているので、用水路の課題について来年は調べて伝えようと思う。そして、今あるごみを拾うこともできる。家や、近くの田んぼなどのごみなら一人でも拾うことができ。また、よく兄弟や従姉妹と散歩をするので、拾いながら歩こうと思う。

会津にはおいしい米がある。全国的に見れば、川の水質もきれいな方だ。しかし、今の用水路を見れば、会津の水の水質が悪化し、やがておいしい米を食べられなくなる日が簡単に想像できてしまう。でも、自分でできることを考えれば、少し考えただけでも色々なことが思いつくだろう。水質を管理してくださる方もいるのに、田んぼに水を入れる前に業者に依頼して清掃しなければならぬということも起きているそう。用水路という狭い場所のことだけでも、様々な問題があると実感した。

みなさんにも身近な用水路を一度見てほしい。毎日米を食べているから、いつも田んぼが目に入る会津だからこそ感じられることがあると思う。狭い用水路の水があたえる事を考え、行動していきたいと思う。

入選

スノーボードと地球温暖化と水

矢吹町立矢吹中学校 三年 三村 優奈

私はスノーボードが大好きだ。スノーボードができるのは冬だけ。私は毎年、冬がくるのを今か、今かと待っている。そして、今年も冬がやってきた。しかし、私が毎年行っていたスキー場はまだオープンしていない。暖冬による雪不足の影響だ。

雪不足によって営業開始を延期したり、ゲレンデが一部しか使えなかつたりするスキー場はこの他にもたくさんある。なぜ今年のように雪不足の年もあれば、都市部まで大雪で大混乱する年もあるのだろうか。調べた結果、エルニーニョ現象とラニーニャ現象という二つの現象が大きく関係していることがわかった。エルニーニョ現象は太平洋赤道域中部から東部にかけて海面水温が高くなる現象で、夏は冷夏、冬は暖冬になる。ラニーニャ現象は同じ海域で海面水温が低くなる現象で、夏は猛暑、冬は大雪になる。だから毎年降雪量や気温には違いがあるのだ。

しかし、エルニーニョ現象やラニーニャ現象は、本来はごく自然な現象といわれている。この二つの現象が大規模な干ばつや極端な大雪・大雨をもたらす異常気象となったのは、地球温暖化の影響とされている。

温暖化で、海面から大量の水蒸気が放出されることで、大気や海流の循環に影響を与える。そして、異なる二つの気象現象の振り幅が大きくなることで、大きな被害をもたらすのだ。今年の雪不足には、地球温暖化も関係していることに驚き、さらに関心が高まった。

地球温暖化による暖冬、雪不足には、どのようなメリット、デメリットがあるのかを調べた。まず、メリットは防寒対策をしなくてもよい、光熱費が抑えられる、太陽光パネルに雪が積もらず使える、雪かきの手間が省けるなどがあった。雪国では雪が少ない方が良いのかもしれない。しかし、冬が寒くなくては困ることもたくさんある。私のようにウィンタースポーツができなくなる、動物の食害にあつたりする、暖房器具や

冬物衣服が売れなくなるなどだ。

それらの中でも特に影響があるのが、水不足だ。「雪が少ない」ということは、雪解け水も「少ない」ということだ。日本の水道水の場合、水源のほとんどが川や湖だ。雪解け水が少なくなると川に流れ込む水も少なくなり、水不足の原因となる。

このように、川や湖、ダムは雪が少ないと水が減少するが、地下水はどうだろう。地下の浅いところを流れる「伏流水」は、川の水が浸み込んだもので、源流は川であることが多いため、降雪量や降水量の影響を受けやすい。一方、地下水は雨水が地面に浸透していったもので降雪量や降水量の影響を受けないというわけではないが、深い場所にあるため、ダイレクトに影響を受けることは少ない。春先からの雪解け水に頼る地域での水不足が懸念されそうだ。

今年の雪不足は、スノーボードができなくなることも以外にも深刻な問題を生んでしまうかもしれない。当たり前にあつた雪、当たり前だった気温、当たり前前に使えた水。少なくなつて無くなつて、初めて大切さに気づくことができた。そして、雪不足はただの気象現象ではなかった。地球温暖化の影響。私たちの行動で変えることができること。雪がなければ水もない。水を守るために、自分のできることから変えていきたい。

第46回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」の概要

第46回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」は、県内の中学校10校から461編の作品の応募があり、その中から入賞者16名、学校賞3校を選定しました。

<応募作品数>

(単位：編)

中学校名	2学年	3学年	計
福島県立会津学鳳中学校	84	0	84
いわき市立植田東中学校	10	15	25
葛尾村立葛尾中学校	2	1	3
郡山ザベリオ学園中学校	11	5	16
須賀川市立第一中学校	11	13	24
須賀川市立第三中学校	0	2	2
相馬市立中村第二中学校	0	1	1
南相馬市立原町第一中学校	0	39	39
福島市立福島第一中学校	10	15	25
矢吹町立矢吹中学校	109	133	242
計	237	224	461

(学校名50音順表記)

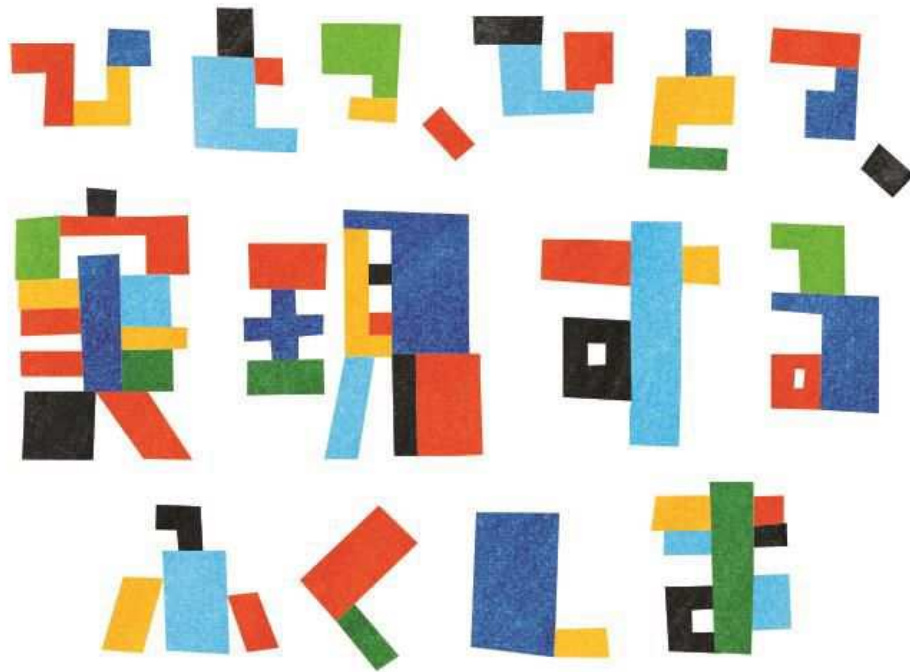
<学校賞の授与>

学校賞には優秀な作文を多数応募した学校またはコンクールに積極的に取り組んだ学校を選定しています。第46回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」では、以下の3校を学校賞に選定しました。

福島県立会津学鳳中学校、葛尾村立葛尾中学校、矢吹町立矢吹中学校

(学校名50音順表記)

参加いただいた中学生の皆さん、そして御協力いただきました先生方に、厚く御礼申し上げます。



福島県企画調整部

復興・総合計画課

電話 (024) 521-7123

HP: で検索

※ふくしまの水に関する情報を掲載しています。

本事業は森林環境基金を活用しています